

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300098		
法人名	合同会社 カーム		
事業所名	グループホームかんまち		
所在地	岐阜県飛騨市古川町上町459番地1		
自己評価作成日	令和6年9月12日	評価結果市町村受理日	令和6年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2193300098-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和6年10月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは古民家を改築、室内は畳敷きであり自宅で暮らしている環境を作っています。ホームの周りを見渡すと田んぼや畑が目の前にあり自然が感じられ落ち着いて暮らせれます。地域の密着としては毎年地元の春祭りに施設内で獅子舞を披露して頂くなど交流を行っています。ホーム内でも入居者の誕生会や時期に合わせた行事を行い楽しんでいます。食事についても三食とも手作りの食事を提供し旬の食材を使いより楽しんでもらえるよう努めています。家庭的な雰囲気の中で、職員ひとりひとり入居者と生活をともにしていることを意識してゆっくりと関わられるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺には公民館や神社、道の駅等がある。ホームは主要道路からは中に入っており、日常的な散歩などにも適した環境にある。古民家を改修した畳敷きの室内は、温もりのあるゆったりとした空間であり、利用者は好きな場所で思い思いに過ごしている。季節ごとの手作り作品や書道作品などが多く飾っており、家族や訪問者の目を楽しませている。日々の食事は、職員が地域住民や家族の差し入れ等を活用しながら、家庭的な献立、味付けで提供している。管理者及び職員間も良好な関係ができており、利用者が安心して暮らせる支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングにホームの理念が掲げてあります。また理念の書いたペーパーを配布して入居者と職員とで一緒に読み、理念の共有しています。	理念をリビングに掲示している。理念の中の「みんなで協力しあう」は、職員のみならず、利用者にも理解してもらいたいとの願いがあり、利用者と毎朝、読み合わせをして理念の共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍も落ち着き、昨年より地元の春祭りが再開。施設へも来てもらい「獅子舞」を披露して頂いたりと地域の方々と交流を継続している。	感染症対策の為、できなかったボランティアの受け入れも再開予定としている。地域の祭りで獅子舞が来訪し、利用者も楽しむことができる。近隣住民から、野菜の差し入れがあるなど、日常的な交流もある。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は感染症予防対策を行いながら、対面式で会議を行い話し合いを行っている。また出席出来なかった方からもアンケートを取りご意見を聞いている。	今年度から、対面式の運営推進会議を開催している。全家族に案内と議題を郵送し、会議の中で、家族からも意見を聞いている。欠席の家族には、面会時や書面で意見や要望を聞き、サービス向上に活かしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことがあればその場で都度質問して回答得ています。	運営推進会議には市職員の出席を得ており、社会福祉協議会には、ボランティア活動の依頼や成年後見人としての活動等で連携を図っている。日常的に、地域の情報が防災無線から流れてくる環境にある。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年定期的に身体拘束等廃止委員会が開催され各事業者の管理者または担当者が出席して話し合いを行っている。また委員会での情報は各部署に報告し共有している。	身体拘束廃止委員会には、法人の幹部も出席し3ヶ月に1度開催している。委員会で話し合った内容は、各事業所に資料を配布し全職員に報告している。また、外部研修を受講した職員は、伝達講師として他の職員に伝え情報を共有している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束等廃止委員内で虐待防止委員会も同時に開催し話し合いを行っている。また専門職研修に参加、研修内容を職員全員にZOOMにて報告し周知している。	虐待防止委員会は、身体拘束廃止委員会と同時に行っている。同時開催は市の承認済みである。委員会では、事例検討やヒヤリハット、事故報告検討会等について、話し合っている。拘束や虐待防止に関する外部研修を受講したり、外部から講師を招いて学び、実践に繋げている。		

岐阜県 グループホームかんまち

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている入居者1名いる。現在はケアマネージャーが対応しているが、今後どの職員でも対応できるように共有していく。パンフレットを市役所から頂き情報を取り入れている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約等については改定の際には入居者本人・家族には十分な説明と理解を頂き契約の締結・解約等を行っています。また、入居時、安心してホームを見学して頂いています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、感染予防対策をしながらではあるが、自由な時間に面会できるようにしている。来所時には、家族からの意見や要望を聞き取っている。また受診の同行なども願っている。	面会時や運営推進会議出席時に、家族から意見や要望を聞いている。事業所との連絡方法についても要望があり、検討していくとしている。家族への便りは毎月、利用者の様子や作品等の写真を豊富に載せて、送付している。	事業所との連絡方法について、家族から、LINEやメールの活用希望がある。今後、連絡方法や連絡時間の調整等について家族と共に検討されたい。
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を汲み取りやすいように管理者も現場に入って情報交換をしている。また代表も週1度は必ず現場の様子を見られ直接相談できる体制をとっている。	管理者も普段から現場に入っており、定期的カンファレンスでも職員の意見を聞いている。費用が発生する事案については、代表にも相談しているが、普段の業務に関する要望については、現場の職員が判断して決定できるようになっている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員が勤務しやすいように勤務表を作成する前には、休みの希望日を確認している。また有給休暇も自由にとれる環境にしている。	管理者は、シフト作成前に職員の希望休や有休休暇の申請等を把握している。また、職員も、急な勤務交代も協力し合って、対応できる関係性ができている。休憩室が完備されており、休憩時間に散歩する職員もある。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社側から職員個々に受講できる研修を進めている。また研修費についても会社が補助し、職員のやりがい・スキルアップに繋げている。	法人の年間研修計画があり、希望をすれば外部研修への参加も可能とし、受講料の補助もある。職員間の関係も良好であり、ベテラン職員が新人職員にスキルを伝えるなど、職場内でのOJTも機能を果たしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との直接の交流はできてはいないが、電話での情報交換などし交流を深めていく。また福祉施設等から研修情報などメールや郵便で届くため活用していく。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を楽しんでもらえるように職員の手作り料理と一緒に食べたり、やりがいを持ってもらえるように手作業での作品作りを行ったりしている。また食後には食器拭きや布巾干しなども行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人と家族とで面談を行い本人の思いや暮らしの希望を傾聴してケアプランに反映している。	入居時のアセスメントシートで、本人の生活歴や職歴等を職員間で共有している。日々の生活から把握した本人の希望や要望、観察して気付いた好みなどは、カンファレンスで報告し共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	代表者と計画担当者が兼務しており契約当初から本人・家族と関わっている。その思いや意見を介護計画に反映されている。	本人と家族の思いや希望を聞きながら、介護計画を作成している。作成時には、タブレット内のケア記録や申し送りも参考にしている。モニタリングは担当職員から話を聞きながら、ケアマネジャーが評価している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を電子化しタブレットにて記載している。特に気になる点があれば申し送り・重要など印が付けられ重要なところを分かりやすくしている。	2年ほど前からタブレット端末を活用し、記録を行っている。職員も慣れてきたことから、ケアに向き合える時間が増えている。デジタル化したことで、日々の記録をグラフ化することが容易となり、個々の変化に気付きやすく、職員間で共有している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設の福祉用具の備品があり、身体的に低下した方などが利用して自室で過ごせるように工夫している。	個々のニーズに応じるため、事業所にて自費でのタクシーやヘルパーを調整し受診同行したり、希望があれば喫茶店や理・美容院へ同行している。食欲がない利用者には、本人の気持ちを尊重し、食べたい時に提供できるように適切に対応している。	

岐阜県 グループホームかんまち

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前はボランティアの活用をしていたが現在は受け入れしておらず、今後地域のボランティアの受け入れを検討している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、本人のかかりつけ医の受診を継続している。受診時に細かな説明が必要な場合は医師宛て手紙に書いたり、受診を職員同行で支援したりもしている。	かかりつけ医の継続や変更など、選択ができることを家族と利用者に説明している。リビングに、利用者ごとのかかりつけ医の電話番号を書いた連絡表を掲示し、緊急時は、速やかに主治医に連絡している。専門医への受診は家族同行を基本としている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は入院前情報を提供、退院時は病院関係者・家族・職員とカンファレンスを行いスムーズにホームへ戻れるように情報交換している。	入院時の情報提供、退院時のカンファレンスには家族と共に、管理者・ケアマネジャーが出席するなど、常に医療機関と連携を図っている。退院後も利用者が不安なく過ごせるよう、職員と情報共有をしている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約時に本人と家族に重度化した場合の説明をしている。また体調が急変した場合、家族と話し合いをし今後の方針も相談する体制を作っている。	契約時に、利用者の状態変化やタイミングに応じて、重度化した場合の説明をしており、実際に看取りを行ったケースもある。終末期について、家族に説明し、揺れ動く気持ちに寄り添いながら看取り支援を行っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急の場合の消防への通報訓練を定期的に行っている。また普通救命講習会を受講した職員もいる。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜勤者は1名の配置のため、緊急時には近隣の職員もすぐに駆けつけることができるよう緊急時連絡網も備えている。	防災訓練では、職員による通報訓練、避難誘導や消火器等の確認を行っている。緊急時には職員に連絡が取れるよう、緊急連絡網をホールに掲示している。災害備蓄用の水を確保し、灯油ストーブも備えている。BCPIは作成済みである。	BCPIは作成済みであるが、職員間の周知や実際に検証するための訓練、研修には至っていない。年度末までに研修、訓練を行い、事業所の実態に即した計画となることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴介助必要な方、自立されている方の情報を職員内でプライバシーの確保できるようにし、必要以上の介助をおこなわないよう心掛けている。	職員は、利用者に声をかける時や支援する際には、常に尊厳を傷つけないよう努めている。作業を依頼する時は、「～してください」ではなく「～してもらえますか」と、尊敬の念を持って声かけしている。入浴時には、利用者の希望を聞き、同性介助で行っている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に沿った暮らしが出来るように心がけている。			
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日1日を自分のペースで過ごせるように体操や手作業の声掛けを行っている。			
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍も落ち着いてきたため、テーブルを囲むような配置にして入居者の方が一緒に食事できるようにしている。食事の献立は三食とも職員が立てているため、より取り見取りの食事を提供している。	毎食、その日の職員が調理をして提供している。ご飯中心の献立であるが、麺類やパン類も提供している。近隣からの差し入れや裏の畑で採れた野菜を使い、季節感ある食事を楽しめるよう工夫している。竹を切って、流しそうめんをしたこともある。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時・15時には水分補給の時間を設け声掛けを行っている。食事についてもそのひとその人で、食事量を変え調整している。			
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは本人に任せている。歯ブラシ等の備品も洗面台の側に置いてある方もいれば自室で保管されている方もいる。義歯の洗浄に必要な方は寝る前に声掛けして行っている。	日々の口腔ケアは利用者の自発的な行動に任せている。介助が必要な利用者は、職員が声掛けや補助を行っている。必要に応じて歯科医と連携を図り、適切なケアに努めている。		

岐阜県 グループホームかんまち

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	紙パンツなど汚染した場合でも出来るだけ自分で交換するようにしている。トイレ内に排泄用のゴミ箱も設置してある。特に紙パンツやパットの汚れが多い方は、清潔保持するために声掛けして確認をしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決めずに週2回程度、その日その日の体調をみて声掛けしています。またプライバシーを尊重出来るように同性介助にて行っています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気分転換できるように居室とリビングの行き来は各自に任せている。昼寝なども自由に行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、家族または薬局から職員が直接預かり担当職員が管理している。薬の調整なども医師や薬剤師と相談しながら行っている。処方箋の冊子もあり職員誰でも直ぐに見れるようにしている。	薬の管理は、担当職員が行っている。薬剤情報は専用ファイルに綴じてあり、職員がいつでも確認できるようになっている。薬の飲み込み具合や投薬後に利用者の変化があった場合は、医師・薬剤師と相談しながら、適切な服薬支援を行っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日手作業を行い作品を作っているが、出来上がった作品を廊下に展示し喜びをもらえようにしている。また外部の方にも展示物を見る機会を作れるのか市職員にも相談もしている。	アセスメントシートから、個々の趣味や好きなことを把握している。ハサミを使って折り紙を切る人、折って貼る人など、利用者が協力し合って、大きな作品を作り、ホーム内に飾っている。大きな作品を他の会場で展示できないか検討している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに春は桜・秋は紅葉と車でドライブに出かけ風景を楽しんでいる。またご家族にも協力して頂き、外出(外食)や外泊をもらっている。外出時は感染対策のため、マスク着用をしている。	気候の良い日は軒先にあるベンチに座り、日光浴をしている。玄関には、いつでも散歩に出かけられるよう、利用者の帽子や押し車を準備している。また、人混みを避けながら、花見や紅葉を楽しんだり、外食などにも出かけている。	

岐阜県 グループホームかんまち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を管理することはほとんどないが、希望あればホームの金庫に保管して預かっている。また手持ちで管理している方については、家族または自己責任にて所有している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている方は居室で家族等に電話をかけている。本人希望あれば、施設からの固定電話にて家族へ電話をかけてもいる。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでは1日中、日が入り朝日から夕陽まで見ることが出来る。また目の前には田んぼが広がり、山や国道が見えたりとほのぼのとした環境となっている。	古民家を改修したホームは、木の温もりが感じられる。室内の床は全て畳敷きで安全な環境となっているが、完全なバリアフリーではなく、少しの段差もある中で、利用者の生活リハビリに繋げている。居室の天井や壁紙、ドアの色を変えることで、居室間違いを防ぐ工夫をしている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う方がひとつのテーブルに対面式で座っている。テレビは2台置いてありどこからでも見やすくした配置にしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具やテレビを持ってきてもらい自宅にいる生活に近づけるようにしている。また安心してくらせるようにアルバムなども持参お願いしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの前にはプレートをつけてわかりやすくしている。またトイレの電気スイッチの使い方がわからない方がいるので自動感知器の電気を使い対応している。		